

平成24年度広域地方計画の推進状況における注目点【四国圏】

四国圏では、No.1～10の各プロジェクトにおいて、**推進状況が目に見え、また他の取組へのインセンティブとなるような代表的取組として、「リーディングプログラム」を選定し、重点的に取り組んでいる。**

このうち、No. 7プロジェクトについては、「中山間地域における地域防災力の強化」をリーディングプログラムとして取組を進めてきたが、取組としては終了している状況であるため、**今後は、「かがわ『里海』づくり協議会」が進めている取組を新たなリーディングプログラムとして位置付け推進していくこととした。**

No.7「中山間地域・島しょ部活性化プロジェクト」リーディングプログラムの変更

名称：中山間地域における地域防災力の強化
チーム名：四国地方整備局
概要：災害時における初期行動を行うための情報(人材、重機、資機材、避難場所等)を共有化するとともに、集落毎の防災力を評価し、保全等を推進する。

○これまでの取組状況

- ・「地域防災力の検討を支援する手引き」をモデル自治体へ提供。
- ・「地域防災力(地元企業)活用審査型総合評価方式の試行」※を実施。

※「地域防災力(地元企業)活用審査型総合評価方式の試行」

地域に精通した優良な地元企業が施工することで、中山間地域における地域防災力の維持・強化を目指し、元請業者と併せて地元一次下請け企業を評価することにより地元企業の健全な育成を促進することを目的としたもの。

災害時の初動活動を行うための防災リソースマップを作成(人材、重機・資機材、避難所等の施設設備の現状把握)

集落毎防災力アセスメントを実施
 ・各集落の警戒避難体制の強化
 ・人命保護上重要な施設の保全
 ・防災基幹集落を重点的に保全

地域防災力を向上



(変更)

名称：「里海」づくりの取組

チーム名：かがわ「里海」づくり協議会

概要：山・川・里(まち)・海をつなげる取組を住民や関係者が連携・協働のもと総合的に進める。

○平成25年度の取組状況

- ・かがわ「里海」づくり協議会を設置し、里海づくりの方向性を明確にするためのビジョン策定・共有化
- ・山・川・里(まち)・海のそれぞれの地域で環境保全活動に取組む各団体のネットワーク化
- ・関係者の協働による海ごみ対策、里山整備の促進、生活排水対策等の実施

○今後の取組予定

次の6つのポイントを重点的に実施し、持続可能な取組を支える基盤整備を行う。

- ・推進体制の構築
- ・理念の共有・取組みへの反映
- ・意識の醸成
- ・人材育成
- ・ネットワーク化
- ・データに基づく順応的管理

「里海」を活かした新しい価値創造 ～SATOUMIを香川から世界へ～

目指すべき香川の「里海」の姿
 人と自然が共生する持続可能な豊かな海

交流と賑わいのある海

- ・地域資源の活用
- ・海との関わりによる交流の促進
- ・海に関わる伝統文化の継承

美しい海

- ・ごみのない海・海辺
- ・良好な水質・底質
- ・自然景観と文化的景観の調和

生物が多様な海

- ・生物多様性の保全
- ・生物生産性の維持
- ・生物の生息空間の確保

「全県域」で、「県民みんな」で、山・川・里(まち)・海を「つなげる」

四国圏では、平成24年度モニタリングにおいては、計画の指針性を一層高めるために、次の改善を実施した。
 まず、圏域を取り巻く状況に関しては、指標の追加により充実を図っている。**全国共通の指標のほか四国圏独自の指標も追加して、よりの確に状況・課題の把握を行った。**
 各プロジェクトの進捗状況においては、指標値推移の要因分析を実施し、課題を把握することとした。
 また、「**プロジェクトの課題と今後の取組の方向**」については、PDCA方式の点検結果を用いることにより、**マネジメントの強化を図った。**

【参考】PDCAの点検結果例

| | | |
|---|--|---|
| 【プロジェクトNo1】人と文化を育む産学官連携プロジェクト 目的・コンセプト：「四国はひとつ」という意識を共有し四国の将来を支える人材の育成 具体的取組内容：四国内の8つの国公私立大学により設立された「e-Knowledgeコンソーシアム四国」の取組を推進 | | |
| 取組計画 (Plan) (H24) 【四国経済連合会】 ・ e-Learning科目による単位互換協定に基づいた講義の提供。 ・ 新たなe-Learningコンテンツの作成。 ・ 各種セミナー・シンポジウムの開催。 H22年度で文部科学省からの補助金が終了したため、今後は外部資金の獲得に努力する。 | 取組計画 (Plan) (H25) 【四国経済連合会】 ・ e-Learning科目による単位互換協定に基づいた講義の提供。 ・ 新たなe-Learningコンテンツの作成。 ・ 各種セミナー・シンポジウムの開催。 ・ 広報活動：メルマガ、ニュースレター (PDF)の配信。 ・ 各大学のシラバス掲載や履修手続きの簡素化。 ・ 人材育成に関わる新規事業の検討・実施。 ・ 著作権処理の共同対応の検討。 ・ オープンコンテンツ化の検討。 | |
| 取組実施状況 (Do) 【四国経済連合会】 ・ e-Learning科目による単位互換協定に基づいた講義の開催。 ・ 四国経済連合会が主催する四経連グローバルチャレンジセミナーを10月に開催。海外業務を経験した実務者3名が講師となり、学生に海外事業の面白さなどを伝えた。 ・ 広報活動：メルマガ、ニュースレター (PDF)の配信。 | プロジェクトの効果・課題 (Check) 【四国経済連合会】 [効果] ・ 履修者数の増加。 339人 (H23) → 945人 (H24) ・ セミナー参加者の増加。 (ライブ型：8大学135名、オンデマンド型：3大学10名参加) [課題] ・ 効果的な広報活動の展開。 ・ 外部資金の獲得。 ・ 四国の人材育成へのさらなる貢献。 | 今後の取組みの方向 (Action) 【四国経済連合会】 ・ 各大学のシラバス掲載や履修手続きの簡素化。 ・ 人材育成に関わる新規事業の検討・実施。 ・ 著作権処理の共同対応の検討。 ・ オープンコンテンツ化の検討。 |

※赤字は過年度から変化がみられた箇所